

公益社団法人 茨城県作業療法士会
令和5年度 第1回 常任理事会 議事録

令和5年7月12日19時00分、Web会議ツールZoomによるWeb会議において、理事名出席の下、常任理事会を開催し、下記議案に付き全員一致をもって可決確定の上、21時00分に散会した。

出席：(理事) 大場、小森、山倉、寺門、寛、細田、浅野、柘植、後閑、片岡、大津、藤田、田口功、
松本 14名

書記：松本

【I 審議事項】

1. 子ども委員会委員長変更について 地域貢献局 細田局長 →承認

<審議概要>

- ・今年度から各部局に委員会が紐づけされるにあたり、来年度から子ども委員会の委員長を古河市の中川珠代さんに後任をお願いする予定であることについて審議いただきたい。

<審議結果>

- ・承認

2. 運営スタッフの謝金について 地域貢献局 細田局長 →継続審議

<審議概要>

- ・今後、県士会活動の運営の謝金について1時間950円で計算しているが、研修会や会議などで拘束時間や実労働時間、0.5時間の扱いなどについて細目が必要と考え、その案を審議いただきたい。
- ・実務時間が1時30分など0.5時間に関しても時給換算するか、または会議などについては時給ではなく1回1000円でお支払するのが良いのではないかと。
- ・実務時間か実働時間でお支払するかについては以前、実務時間でお支払することで決まっている。
- ・実務時間と拘束時間についてはそれぞれ行っている内容によって違いがあるが、内容も分けることが難しい。
- ・いろいろなパターンが想定されるが、ある程度の項目を作らないと今後の支払いが乱雑になる可能性がある。
- ・研修に関しては拘束時間以外に研修中に行っている内容も大事になってくるのではないかと。
- ・会議は1回行うことにいくらか決めたほうが良いのではないかと。

<審議結果>

- ・広報局・教育學術局からどんなパターンが想定されるか意見を集約し、そのうえで再度検討する。

3. 各士会員への情報発信、伝達方法について 地域貢献局 細田局長・藤田部長 →継続審議

<審議概要>

- ・日本作業療法士協会で地域社会振興部が新設され、協会からの情報をいかに各士会員に伝達するかが協議の中心となりました。イキイキ地域事業部では協会・士会連携で各士会員への伝達方法の確認と協会ニュースレターのたたき台を作って会員に伝達することについて審議いただきたい。
- ・日本作業療法士協会でニュースレターのたたき台をいただき、情報発信伝達の提案があったためこの形で進めてよいか。
- ・ニュースレターについてはあくまでたたき台であるため、各県士会ごとにニュースレターを作っても構わないとのこと。
- ・伝達手段としてはメルマガとホームページ、LINEなどの媒体があり、PDFデータならどれでも情報発信は可能。
- ・会員全体の周知に関してメルマガ登録が約200件、公式LINEの登録者が400名ほどいるため少なくとも会員1000名に対し400名の目に触れることができる。
- ・会員みずから情報を取りにいかないと情報を得ることはできない。

- ・もし紙媒体で発送したとしても 1000 名の会員すべてに郵送したとして、そのニュースレターを全員が読むとは考えづらい。

<審議結果>

- ・伝達方法について確認できたので、再度イキイキ地域事業部で検討する。

4. 茨城県作業療法学会参加費見直しについて 学会部 浅野部長 →継続審議

<審議概要>

- ・これまで学会の参加費について会員 3000 円、非会員 5000 円、多職種 3000 円で行ってきたが県士会員であるメリットがもっとあったほうが良いのと考え、新しい学会参加費案を作ったため審議いただきたい。
- ・案は 3 種類あり
 - ①県士会の会員 1000 円、他都道府県会員 2000 円、多職種・非会員 5000 円
 - ②県士会の会員 0 円、他都道府県会員 2000 円、多職種・非会員 3000 円
 - ③県士会の会員 0 円、他都道府県会員 3000 円、多職種・非会員 6000 円
- ・会計上は学会費の収入はそこまで大きくないが、今年度はすでに予算を立てているため、事務局としては収入支出の大幅な変更になるのは避けたい。
- ・会員非会員の学会費は都道府県によって違うが、非会員は学会費を 0 円にしている士会もある。
- ・それ以外に会員になってから 3 年目が学会費 0 円、4 年目から会費がかかるようにしている士会もあるが、入会から 3 年を士会で把握する必要がある、準備が必要になる。
- ・来年度に向けて予算案の時点で会員 0 円と非会員・多職種 3000 円でよいのではないかと。

<審議結果>

- ・来年度に向けて準備を進める。

5. 今年度県学会の進捗状況報告 学会長 柘植部長 →継続審議

- ・2 月 18 日に行われる学会のテーマ「作業療法士がつなぐ未来～多様性社会で問われる作業療法士の専門性」に決まった。
- ・山本会長には基調講演「これからの作業療法にとって大切なこと～求められる組織の在り方～」というテーマで講演いただく。
- ・ポスターは現在作成中、情報をいっぱい入れないようにして作成したが、学会長などの名前はどこまで入れるか。
- ・参加費の支払いは 12 月から行う予定でいる。
- ・各医療圏活動の紹介については動画にするのがよいのではないかと考えている。
- ・ほかの学会のポスターを見ていたが、会長の写真や座長が掲載されているポスターがいいのではないかと。
- ・今回の学会の意図が伝わらないのではないかと。
- ・ポスターについては再度検討、ポスターができるたびに理事に回す。
- ・学会誌の表紙について、毎年レイアウトが決まったものを使ったほうが良いと思う。
- ・冊子のサイズに関して抄録もすべて入れたものがないかなどは小さくてもよいのではないかと。
- ・認定作業療法士を取るときに抄録の提出が必要なため、そのコピーを県士会に問い合わせが来ることもある。
- ・学会の内容について基調講演以外で山本会長と士会員との座談会のようなものがあったとしてもよいのではないかと。
- ・今回のプログラムの中でダイバーシティについて県内の作業療法士に話してもらおうセッションがあるため、その中で山本会長に聞き手となって答えてもらうとよいのではないかと。

<審議結果>

- ・ポスターに関して再度、理事に回す。
- ・会費に関しては来年度に向けて予算案の検討を進める。

【Ⅱ 報告・連絡事項】

1. VR 刷新の進捗報告

広報局 山倉局長

- VR 刷新のため業者との打ち合わせを行った。
- ①アルツハイマー型認知症のものとられ妄想の事例、②前頭側頭型認知症の事例などを挙げて業者に相談したところ①②とも 100 万円では作成するのは難しいことが分かった。
- 100 万円で収まらない理由として VR を作る技術よりもスタジオやシナリオ、役者などの費用が掛かってしまうため難しいということだった。
- リアルなものを完全再現しようとする 500 万以上かかってしまうため、現時点で作るのは難しい。
- ③リモコンを見ると文字が読めなくなる④道がわからなくなる。の 2 つに関しては 60 万～70 万から作成可能。
- 公益目的保有財産の 150 万円で使い、進める

- 令和 5 年 9 月 3 日（日）9：00～ 茨城県作業療法士会事務所または ZOOMにて開催予定

以上